

高知県感染症発生動向調査（週報）

2016年 第40週（10月3日～10月9日）

蚊やマダニに刺咬されないように注意しましょう！

屋外では長袖・長ズボンを着用するなど
肌の露出をできるだけ少なくしましょう。



★お知らせ

○咽頭結膜熱（プール熱）に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第39週の0.87から第40週は1.30と増加しています。高知県全域、高知市、須崎、中央西、中央東で増加し、高知県全域、高知市、須崎、中央西で注意報値を超えています。特に、高知市では5週連続で注意報値を超えています。

また、定点医療機関からのホット情報でも、アデノウイルス感染症として、35例の報告があるなど、アデノウイルスを原因とする感染症の報告が多い状態であることから、注意が必要です。

咽頭結膜熱の主な症状は、発熱・咽頭炎・結膜炎で、その他に、リンパ節の腫れ、腹痛、下痢などが生じることもあります。

感染力は非常に強く、通常は患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスによる飛沫感染、あるいは、ウイルスが付着した手やタオルなどの患者が触れたものを介した接触感染により結膜あるいは上気道から感染します。

以下のことに気を付け、感染予防に努めましょう。

- 1) 流行時には流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう。
- 2) 感染者との密接な接触は避けましょう。
- 3) タオル等は別のものを使い、共用しないようにしましょう。

○手足口病に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第39週の0.23から第40週は0.33と増加しています。安芸、中央西で増加し、安芸では注意報値を超えています。また、病原体検出情報では、Coxsackie virus A14が1例報告されています。

手足口病は、手のひら・足の裏などに米粒大の水ぶくれを含む発しん、口の中に口内炎が出現する他、38℃以下の発熱や食欲不振、のどの痛み等が見られますが、一般に軽症で、3～7日でおさまります。重症化はまれですが、合併症として急性脳炎や心筋炎があります。

主に飛沫感染、接触・経口感染により感染が拡大します。幼稚園、保育園、学校等の集団生活ではうがい、手洗い等の予防対策に加えて、タオル・コップ等の共用を避ける等して、感染予防に努めてください。

○百日咳に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第39週の0.00から第40週では0.10となっています。須崎、高知市で増加し、高知県全域、須崎、高知市では注意報値を超えています。

また、定点医療機関からのホット情報では須崎から百日咳1例（39週検出）が報告されています。

病原体検出情報では須崎と幡多から *Bordetella pertussis* が2例報告されています。

百日咳は、感染力が強く、軽症でも菌の排出があるため、注意が必要です。

特に生後6ヶ月未満の乳児では無呼吸発作等、重篤になる場合もあるので、予防接種をしていない新生児、乳児がいる場合は特に感染に対する注意が必要です。

予防対策は予防接種、うがい、手洗い、咳エチケットです。

感染予防のためにワクチン接種をお勧めします。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

○流行性耳下腺炎（おたふく風邪）に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第 39 週の 0.53 から第 40 週では 1.17 と急増しています。中央東、高知市で増加し、中央東では注意報値を超えています。

また、定点医療機関からのホット情報でも 13 例の報告があります。

流行性耳下腺炎は、3～6 歳の小児に多い感染症で、耳の下やあごの下の腫れと痛みが特徴です。通常、1～2 週間で軽快しますが、まれに無菌性髄膜炎、難聴、精巣炎等の合併症を起こすことがあります。また、感染しても症状が現れない不顕性感染が 30%程度あるとされています。

感染力はとても強く、咳等のしぶきによる飛沫感染と唾液が付着した物への接触等による接触感染があります。予防対策としては、手洗い、うがいの励行に加えて、任意による予防接種がありますので、かかりつけ医療機関にお尋ねください。

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

基幹定点からは 6 例の報告があり、定点医療機関からのホット情報では 24 例の報告があるなど、引き続き報告数の多い状態が続いていることから、注意が必要です。

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマによって起こる呼吸器感染症で、幼児期から学童期によく見られます。頑固な咳嗽と発熱を主症状に発病し、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を生じることがあります。

感染経路は主に飛沫感染や接触感染です。保育園や幼稚園、学校、あるいは家庭内等での濃厚な接触で感染します。患者の感染力は発症から 10 日前後（症状持続の例でも 6 週間程度）で消失しますが、この間は濃厚な接触は避けるようにしましょう。

予防対策は手洗い、うがい、咳エチケットを励行しましょう。

☆マダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）はマダニが媒介する感染症です。

すべてのマダニが病原体を持っているわけではありませんが、ダニに咬まれないようにすることが感染の予防になります。予防するためのワクチン等はありません。まだ、マダニが活発に活動する時期です。引き続き、注意が必要です。

野山や畑、草むらなどに出かけるときは、次のことに注意しましょう。

▲肌を出さないよう、長袖、長ズボン、長靴、帽子、手袋等を着用しましょう。

▲マダニ用の忌避剤を使用しましょう。

▲草の上に直接座ったり、寝転んだりしない。敷物を利用しましょう。

▲脱いだ上着やタオルは、不用意に地面や草の上に置かないようにしましょう。

▲帰宅後は、すぐに入浴してマダニに咬まれていないか確認し、新しい服に着替えましょう。

▲野外から帰った犬や猫はダニが付着している可能性があるため、よく見てあげましょう。

▲吸血中のマダニを見つけたら、無理に引き抜こうとせず、医療機関を受診し処置してもらいましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2 週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

●高知県衛生研究所 マダニによる感染症の注意喚起パンフレットを作成しました。

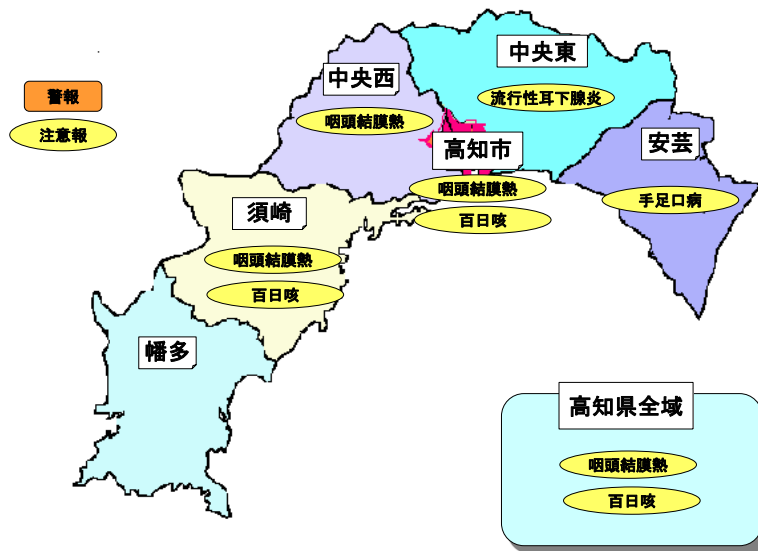
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2016061300063.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減
 40週（10月3日～10月9日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	2.93	幡多、中央西、安芸で増加しています。
RSウイルス感染症	↗	1.47	中央東、高知市で増加しています。
咽頭結膜熱	↗	1.30	高知市、須崎、中央西、中央東で増加し、高知県全域、高知市、須崎、中央西では注意報値を超えています。
流行性耳下腺炎	↑	1.17	中央東、高知市で増加し、中央東では注意報値を超えています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	0.70	中央東で増加しています。

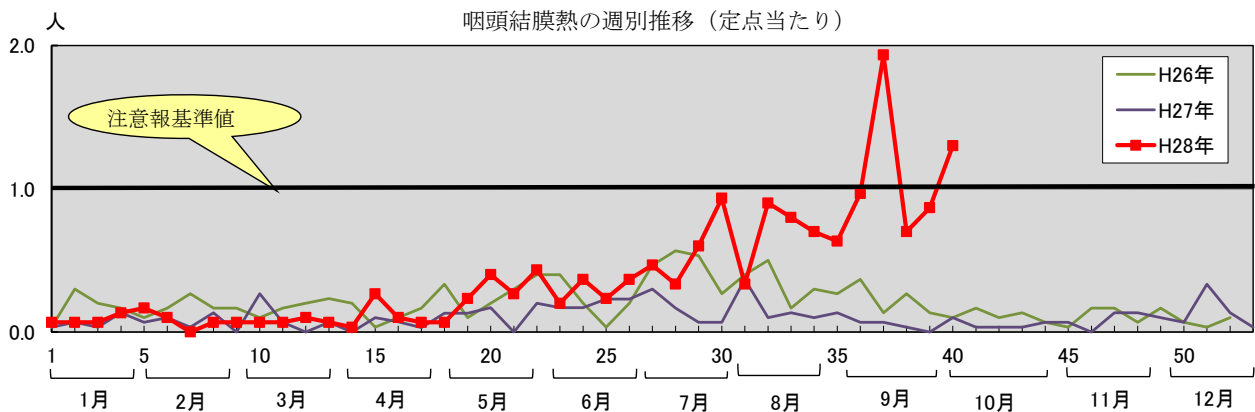
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

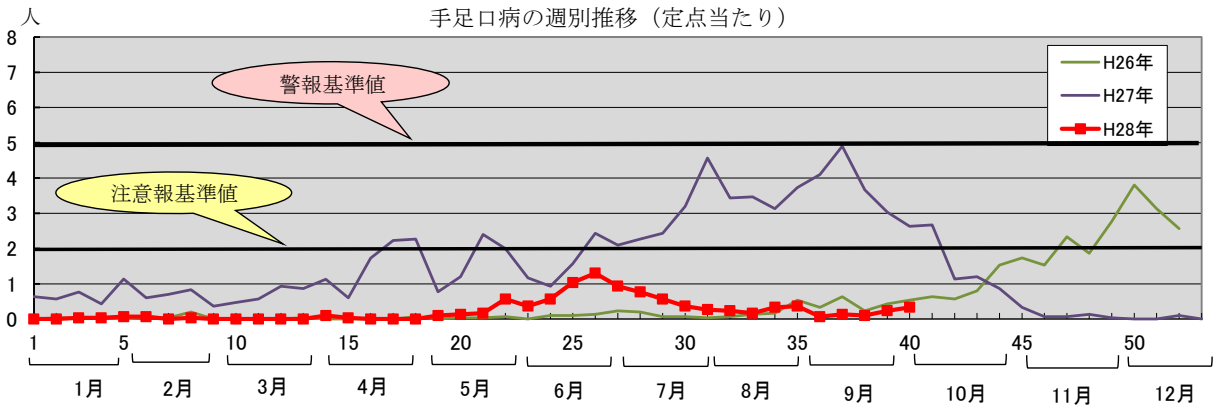
○咽頭結膜熱 第40週： 1.30（注意報値：1.00 警報値：3.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり1.30（前週：0.87）と増加しています。高知市2.64（前週：1.91）、須崎1.50（前週：0.00）、中央西1.33（前週：0.67）、中央東0.43（前週：0.29）で増加し、高知県全域、高知市、須崎、中央西では注意報値を超えています。



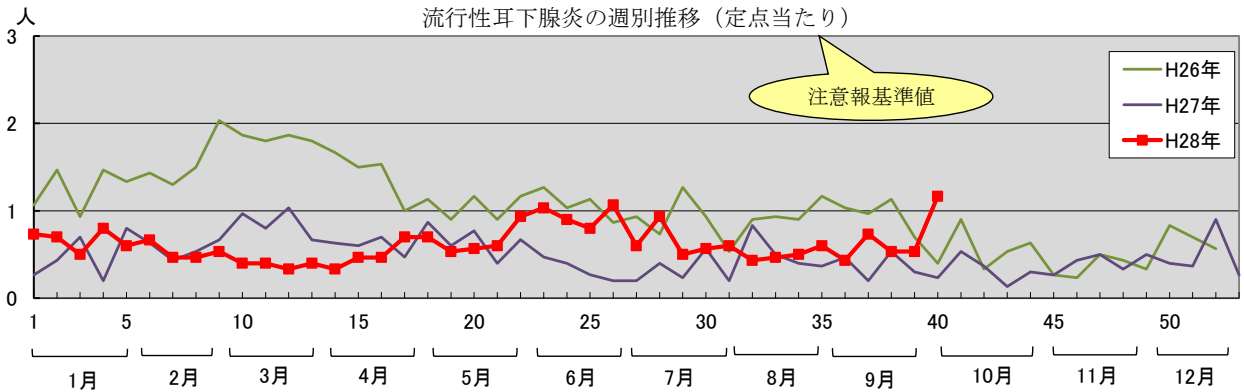
○手足口病 第40週： 0.33 (注意報値：2.00 警報値：5.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.33(前週:0.23)と増加しています。安芸 2.00(前週:0.50)、中央西 1.00(前週:0.00)で増加し、安芸では注意報値を超えています。



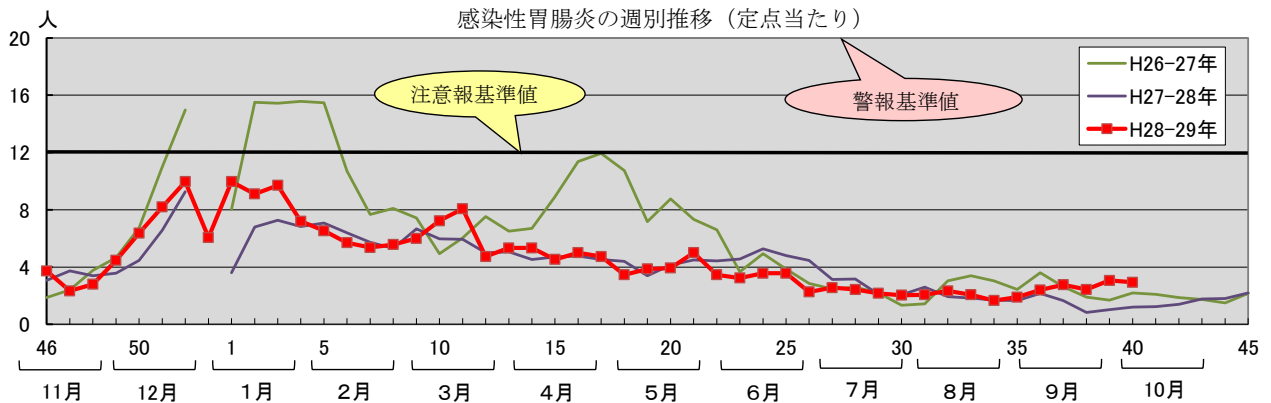
○流行性耳下腺炎 第40週： 1.17 (注意報値：3.00 警報値：6.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.17(前週:0.53)と急増しています。中央東 3.29(前週:0.86)、高知市 0.82(前週:0.18)で増加し、中央東では注意報値を超えています。



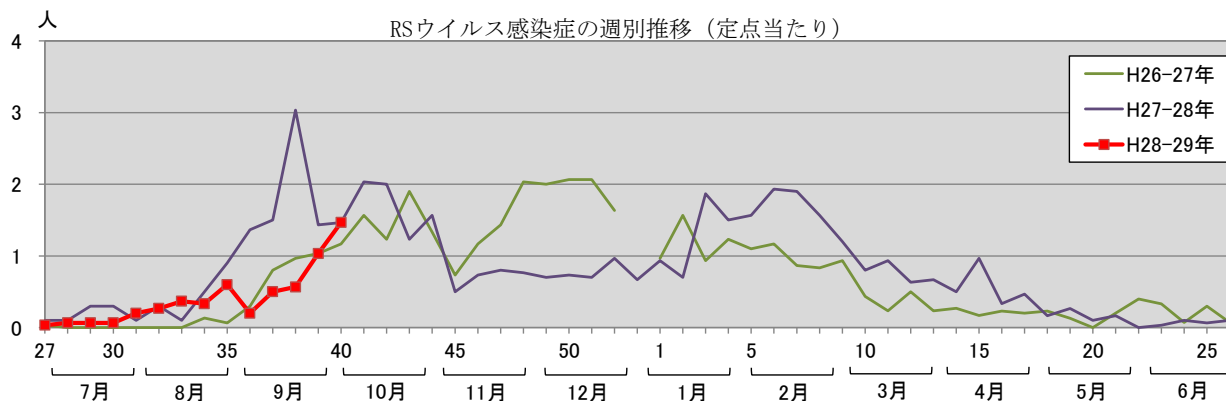
○感染性胃腸炎 第40週： 2.93 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.93(前週:3.07)とほぼ横ばいですが、幡多 3.20(前週:1.00)、中央西 1.67(前週:0.33)、安芸 1.50(前週:0.50)で増加しています。



○RSウイルス感染症 第40週： 1.47 （注意報値：－ 警報値：－ ）

定点医療機関からの報告数は定点当たり1.47（前週：1.03）と増加しています。中央東2.86（前週：1.57）、高知市1.91（前週：1.18）で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。

そのため、H25-H26年とH26-H27年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
40	-	10ヶ月	男	高知市	Norovirus GII NT
40	百日咳	4	男	須崎	<i>Bordetella pertussis</i>
40	百日咳	11	女	幡多	<i>Bordetella pertussis</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
37	手足口病	2	女	須崎	Coxsackievirus A14
38	-	1	女	高知市	Adenovirus 41
38	感染性胃腸炎	1	女	須崎	Norovirus GII NT
39	無菌性髄膜炎 流行性耳下腺炎	8	男	中央東	Cytomegalovirus
39	伝染性紅斑	5	女	須崎	Human herpes virus 7

★全数把握感染症

第40週

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	100	80歳代男	安芸
		1	101	80歳代男	須崎
5類	後天性免疫不全症候群	1	8	30歳代男	中央東

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	あけぼのクリニック	RSウイルス感染症3例（1歳、2歳、3歳）
	早明浦病院小児科	マイコプラズマ肺炎1例（4歳男）
	高知大学医学部附属病院小児科	ノロウイルス腸炎1例（13歳女）
	おひさまこどもクリニック	ムンプス12例（1歳、4歳6人、5歳2人、6歳3人：11例は香美市、特に香北町9例）
		アデノウイルス咽頭・扁桃炎2例（4歳、5歳）
野市中央病院小児科	マイコプラズマ肺炎1例（7歳男）	
高知市	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス20例（0歳男2人、1歳女3人、2歳男女、3歳男7人、3歳女2人、4歳男2人、4歳女、5歳男）
		サルモネラ0-9腸炎1例（3歳女）
		ノロウイルス腸炎1例（1歳男）
		カンピロバクター1例（50歳男）
		マイコプラズマ肺炎7例（4歳男、6歳女2人、9歳女2人、19歳女、43歳女）
	福井小児科・内科・循環器科	伝染性紅斑（りんご病）2例（1歳女、6歳女）
		流行性耳下腺炎1例（4歳女）
		アデノウイルス感染症2例（2歳女2人）
		マイコプラズマ肺炎1例（7歳女）
		百日咳2例（8歳女、12歳男：2人ともPT-IgG160）
	三愛病院小児科	溶連菌感染症3例
		マイコプラズマ肺炎3例（6歳女、7歳男女）
	高知医療センター小児科	アデノウイルス感染症6例（1歳女、2歳男、3歳男、4歳男、5歳男、8歳男）
		ノロウイルス1例（11歳男）
		ヒトメタニューモウイルス感染症1例（2歳女）
RSウイルス6例（4ヶ月男、11ヶ月男、1歳男女、3歳男、5歳男）		
中央西	日高クリニック	マイコプラズマ肺炎1例（12歳女）
		アデノウイルス扁桃炎1例（4歳女）
	くぼたこどもクリニック	アデノウイルス感染症1例（4歳女）
	石黒小児科	帯状疱疹2例（2歳女、4歳男：水痘ワクチン接種2回ズミ）
須崎	もりはた小児科	滲出性扁桃炎（アデノによる）3例
		水痘（3歳：ワクチン1回ズミ）
		マイコプラズマ肺炎2例（5歳女、14歳男）
		百日咳1例（4歳男※39週検出）
幡多	こいけクリニック	マイコプラズマ肺炎8例（1歳女、2歳男、4歳男女、5歳女、7歳男、8歳女、14歳女）

★全国情報
麻疹

麻疹（はしか）の流行が問題となっています。

麻疹は、発熱・咳・鼻水といった風邪のような症状の後、高熱と発疹が現れ、空気感染、飛沫感染、接触感染により感染し、その感染力は非常に強いと言われています。

発熱等の麻疹が疑われる症状が現れた場合は、医療機関に直ぐに受診をするのではなく、必ず事前にかかりつけ医等に電話連絡でその旨を伝え、指示に従い、医療機関を受診しましょう。

- ・麻疹は予防接種が有効です。定期接種は対象年齢になったら確実に2回受けましょう。
- ・麻疹は感染力が非常に強い感染症です。自分が感染しないためだけでなく、周りの人に感染を広げないためにも予防接種は重要です。予防接種を受けてない方や、予防接種が1回だった年代の方（概ね26歳以上の方）については十分な免疫を獲得してない可能性があることから、特に注意が必要です。
- ・妊娠中に麻疹に罹患すると、一般に重症化することが知られています。妊娠中の接種はできませんが、これから妊娠を計画されている方は予防接種を受けることをご検討ください。
- ・麻疹流行時には外出を避け、人込みに近づかないようにするなど注意が必要です。特に感染者が多く報告されているところへ出かける際は注意しましょう。

○高知県健康対策課 麻疹・風しんに関する情報

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/kansen-yobousessyumashin.html>

○厚生労働省 麻疹（はしか）に関するQ&A

<http://www.mhlw.go.jp/qa/kenkou/hashika/index.html>

○国立感染症研究所感染症疫学センター 麻疹に関する緊急情報（2016年8月25日）

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/655-disease-based/ma/measles/idsc/6709-20160825.html>

第33週以降、全国各地で麻疹の患者報告が相次いでおり、今年全国の麻疹患者報告数は第39週時点※で145名と、昨年1年間の報告数35名を大きく超えています。

第39週の報告数は6名となっており、引き続き、関西、関東圏からの報告が相次いでいます。それぞれの報告数は、大阪府1名、神奈川県2名、東京都2名、静岡県1名となっています。

国立感染症研究所麻疹情報（速報）は次のとおり発信されています。

○国立感染症研究所 感染症発生動向調査（IDWR）麻疹第39週速報

<http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/diseases/measles/measles2016/meas16-39.pdf>

○国立感染症研究所 麻疹ウイルス分離・検出速報

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-measles.html>

※報告数は感染症発生動向調査システムWISH公開データ（週報）を掲載しているため、速報として公開されている報告数とは一致しない場合があります。

■ジカウイルス感染症の定義と発生届について

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行令が一部改正され、平成28年2月15日からジカウイルス感染症が全数報告の対象となる四類感染症となりました。

診断した医師は直ちに最寄りの保健所又は福祉保健所に届け出ることをお願いします。

●国立感染症研究所 ジカウイルス感染症関連情報

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>

●厚生労働省検疫所 海外感染症情報

<http://www.forth.go.jp/index.html>

●外務省 海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

●国立国際医療研究センター ジカ熱/ジカウイルス感染症 2016年9月6日更新

<http://www.dcc-ncgm.info/topic/topic-ジカウイルス感染症/>

●ジカウイルス感染症 定義 (厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-04-44.html>

●ジカウイルス感染症 発生届様式 (PDF)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/pdf/01-04-44b.pdf>

●ジカウイルス感染症について (厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

●政府広報オンライン 何が危ない? どう防ぐ? ジカウイルス感染症 (ジカ熱) 予防のポイント

<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201605/2.html>

●外務省海外安全ホームページ マレーシアにおけるジカウイルス感染症の発生 2016年9月4日更新

http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcspotinfo_2016C240.html

第38号 (9月19日～9月25日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核272例

3類感染症：コレラ1例、腸管出血性大腸菌感染症77例、腸チフス4例

4類感染症：A型肝炎2例、ジカウイルス感染症1例、デング熱11例、日本紅斑熱4例、マラリア1例、ライム病1例、レジオネラ症24例、レプトスピラ症2例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症18例、急性脳炎3例、クリプトスポリジウム症1例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例、後天性免疫不全症候群12例、ジアルジア症2例、侵襲性インフルエンザ菌感染症2例、侵襲性肺炎球菌感染症10例、水痘 (入院例に限る) 2例、梅毒57例、播種性クリプトコックス症2例、破傷風3例、風しん2例、麻しん9例、薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、腸チフス1例、E型肝炎4例、重症熱性血小板減少症候群1例、デング熱4例、日本紅斑熱3例、レジオネラ症7例、レプトスピラ症12例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症18例、急性脳炎5例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、水痘 (入院例に限る) 4例、梅毒43例、播種性クリプトコックス症2例、麻しん5例

なお、本集計日に基づく第38週の麻しん症例数は、大阪府においては病型変更後のデータ確認作業が集計後に行われたことにより、本週報において一部のデータが反映されていない。

★注目すべき感染症

◆RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルス (respiratory syncytial virus : RSV) を病原体とする乳幼児に多く認める急性呼吸器感染症である。潜伏期は2～8日であり、典型的には4～6日とされている。生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の人がRSウイルスの初感染を受けるが、再感染によるRSウイルス感染症も普遍的に認められる。初感染の場合、発熱、鼻汁などの上気道症状が出現し、うち約20～30%で気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現するとされる。乳幼児における肺炎の約50%、細気管支炎の約50～90%がRSウイルス感染症によるとされる。また、新生児や生後6カ月以内の乳児、月齢24カ月以内の免疫不全児、血流異常を伴う先天性心疾患を有する児あるいはダウン症児は重症化しやすい傾向がある。さらに、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者におけるRSウイルス感染症は、肺炎の合併が認められることも明らかになっている。ただし、年長の子や成人における再感染は、重症となることが少ない。

RSウイルス感染症が重症化した場合には、酸素投与、輸液や呼吸器管理などの対症療法が主となる。また、早産児、気管支肺異形成症や先天性心疾患等を持つハイリスク児を対象に、RSウイルス感染の重症化予防のため、ヒト化抗RSV-F蛋白単クローン抗体であるパリビズマブの公的医療保険の適応が認められている。

RSウイルス感染症は、感染症法改正 (2003年施行) 時に、感染症発生動向調査の小児科定点把握

の5類感染症に追加された。指定された定点医療機関において、医師により症状や所見からRSウイルス感染症が疑われ、かつ検査診断がなされた者が報告の対象となる。検査診断のために用いられるRSウイルス抗原検査の公的医療保険の適用範囲は、従来の「入院中の患者」（2006年までは3歳未満入院患者にのみ適用、その後全年齢の入院患者に適用）以外に、2011年より外来の「1歳未満の乳児」および「パリビズマブ製剤の適用となる患者」に拡大された。また、全国の約3,000の小児科定点医療機関による報告数は、年々増加しているが、検査診断のための公的医療保険の適応が拡大されてきたこと等による影響も考慮する必要がある。また、本疾患の発生動向調査は小児科定点医療機関のみからの報告であることから、成人における本疾患の動向の評価は困難である。

RSウイルス感染症は、例年、季節性インフルエンザに先行して、夏頃より始まり秋に入ると患者数が急増し、年末をピークに春まで流行が続くことが多い。また、流行開始時期は、九州が他地域よりも早く、南・西日本から東日本へと流行が推移する傾向にある。亜熱帯地域の沖縄県は他県と異なり夏期にピークを持つ。

2016年も8月中旬から患者報告数が増加し始め、9月に入り、過去数シーズンと同様に報告数が急増している。2016年第38週（2016年9月19～25日：9月28日現在）の患者報告数は4,204例となっており、過去10年間で最も多いが〔RSウイルス感染症の年別・週別発生状況〕、その解釈については注意が必要である。地域別における報告数上位3位の都道府県は、第29週から第33週までは福岡県・大阪府・東京都であったが、第34・35週は東京都・大阪府・北海道、第36週は東京都・神奈川県・大阪府（神奈川県と同数）、第37・38週は東京都・神奈川県・新潟県となっており、例年同様、南・西日本から東日本へ流行が推移している傾向が認められた。2016年は、2016年第1週から第38週までの累積報告数を年齢群別に集計すると、0歳が41%と最も多く、次に1歳が36%と続いた。3歳以下が全体の96%、5歳以下が99%を占めた。性別は男性が54%と女性に比べてやや多かった。この年齢分布・性差は過去数シーズンと同様である。

感染経路は、患者の咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスの付着した手指や物品等を介した接触感染が主なものである。特に、家族内では、上述した感染経路が重複するため、RSウイルスが伝播しやすいことも報告されている。よって、家族内にハイリスク者〔乳幼児や慢性呼吸器疾患（喘息）等の基礎疾患を有する高齢者〕が存在する場合、罹患により重症となる可能性があるため、適切な飛沫感染や接触感染に対する感染予防策を講じることが重要である。飛沫感染対策としてのマスク着用や咳エチケット、接触感染対策としての手洗いや手指衛生といった基本的な対策を徹底することが求められる。本疾患は、例年年末をピークに報告数は減少するが、春まで流行が続くことが多いため、引き続き本疾患の発生動向を注視する必要がある。

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第40週 平成28年10月3日(月)～平成28年10月9日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第40週						計	前週	全国(39週)	高知県(40週未累計) H28/1/4～H28/10/9	全国(39週未累計) H28/1/4～H28/10/2
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多					
インフルエンザ	インフルエンザ							()	()	795 (0.16)	14,927 (310.98)	1,570,592 (320.53)	
小児科	咽頭結膜熱			3	29	4	3	39 (1.30)	26 (0.87)	868 (0.28)	466 (15.53)	53,296 (17.02)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			3	13		2	3	21 (0.70)	30 (1.00)	4,724 (1.50)	2,026 (67.53)	284,252 (90.79)
	感染性胃腸炎		3	27	33	5	4	16	88 (2.93)	92 (3.07)	11,469 (3.64)	5,248 (174.93)	658,773 (210.40)
	水痘		1	3	2	2	2		10 (0.33)	5 (0.17)	894 (0.28)	322 (10.73)	45,733 (14.61)
	手足口病		4		3	3			10 (0.33)	7 (0.23)	3,410 (1.08)	284 (9.47)	37,771 (12.06)
	伝染性紅斑				8			1	9 (0.30)	5 (0.17)	472 (0.15)	282 (9.40)	46,546 (14.87)
	突発性発疹			1	5	2	1	1	10 (0.33)	15 (0.50)	1,558 (0.49)	411 (13.70)	59,016 (18.85)
	百日咳				2			1	3 (0.10)	()	80 (0.03)	94 (3.13)	2,274 (0.73)
	ヘルパンギーナ				4	1		6	11 (0.37)	5 (0.17)	3,084 (0.98)	732 (24.40)	117,992 (37.69)
	流行性耳下腺炎			23	9			1	2	35 (1.17)	16 (0.53)	3,790 (1.20)	741 (24.70)
RSウイルス感染症		2	20	21	1				44 (1.47)	31 (1.03)	5,463 (1.73)	757 (25.23)	51,563 (16.47)
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	19 (0.03)	()	326 (0.47)
	流行性角結膜炎								()	1 (0.33)	701 (1.01)	17 (5.67)	19,395 (28.15)
基幹	細菌性髄膜炎								()	1 (0.13)	10 (0.02)	10 (1.25)	371 (0.79)
	無菌性髄膜炎								()	()	34 (0.07)	33 (4.13)	1,033 (2.21)
	マイコプラズマ肺炎		2	1				3	6 (0.75)	7 (0.88)	556 (1.18)	229 (28.63)	12,072 (25.79)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								()	1 (0.13)	9 (0.02)	28 (3.50)	243 (0.52)
	感染性胃腸炎								()	2 (0.25)	6 (0.01)	236 (29.50)	4,817 (10.29)
計 (小児科定点当たり人数)		10 (5.00)	82 (11.44)	130 (11.72)	18 (6.00)	14 (7.00)	32 (5.80)	286 (9.33)		37,942	26,843 (689.73)	3,083,488	
前週 (小児科定点当たり人数)		10 (5.00)	57 (8.15)	127 (10.73)	7 (2.34)	13 (6.50)	30 (5.40)		242 (7.74)				

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第40週						計	前週	全国(39週)	高知県(40週未累計) H28/1/4～H28/10/9	全国(39週未累計) H28/1/4～H28/10/2
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多					
インフルエンザ	インフルエンザ									0.16	310.98	320.53	
小児科	咽頭結膜熱			0.43	2.64	1.33	1.50	1.30	0.87	0.28	15.53	17.02	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.43	1.18		1.00	0.60	0.70	1.00	1.50	90.79	
	感染性胃腸炎		1.50	3.86	3.00	1.67	2.00	3.20	2.93	3.07	3.64	174.93	210.40
	水痘		0.50	0.43	0.18	0.67	1.00		0.33	0.17	0.28	10.73	14.61
	手足口病		2.00		0.27	1.00			0.33	0.23	1.08	9.47	12.06
	伝染性紅斑				0.73			0.20	0.30	0.17	0.15	9.40	14.87
	突発性発疹			0.14	0.45	0.67	0.50	0.20	0.33	0.50	0.49	13.70	18.85
	百日咳				0.18		0.50		0.10		0.03	3.13	0.73
	ヘルパンギーナ				0.36	0.33		1.20	0.37	0.17	0.98	24.40	37.69
	流行性耳下腺炎			3.29	0.82		0.50	0.40	1.17	0.53	1.20	24.70	37.50
RSウイルス感染症		1.00	2.86	1.91	0.33			1.47	1.03	1.73	25.23	16.47	
眼科	急性出血性結膜炎									0.03		0.47	
	流行性角結膜炎								0.33	1.01	5.67	28.15	
基幹	細菌性髄膜炎									0.13	0.02	1.25	0.79
	無菌性髄膜炎									0.07	4.13	2.21	
	マイコプラズマ肺炎		2.00	0.20			3.00	0.75	0.88	1.18	28.63	25.79	
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)								0.13	0.02	3.50	0.52	
	感染性胃腸炎								0.25	0.01	29.50	10.29	
計 (小児科定点当たり人数)		5.00	11.44	11.72	6.00	7.00	5.80	9.33			689.73		
前週 (小児科定点当たり人数)		5.00	8.15	10.73	2.34	6.50	5.40		7.74				

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869